

## 日本地球化学会 2009 年度 第 2 回評議員会 議事録

本議事録は、2009 年 6 月 15 日にメールで発議した第 2 回評議員会の内容を中心としているが、本年度第 1 回評議員会(2 月 14 日)後、第 2 回評議員会終了(6 月 30 日、以下日付については、(6.30)のように括弧内の数字で示す)までに、電子メールにて実施された評議員間での情報交換と審議の内容も含む。

電子メール送信先：蒲生俊敬会長、海老原充副会長、石橋純一郎、小畑元、佐野有司、鈴木勝彦、角皆潤、平田岳史、益田晴恵、南雅代(以上幹事)、天川裕史、岩森光、植松光夫、鍵裕之、北逸郎、瀧上豊、中塚武、奈良岡浩、野尻幸宏、日高洋、松本拓也、三村耕一、柳沢文孝、塚本 尚義(以上評議員)

### 1. 2009年度第1回評議員会議事録の承認

小畑幹事から2009年度第1回評議員会議事録が提案され(2.27)、承認された(6.30)。

### 2. 報告事項

#### (1) 庶務 (小畑幹事)：

【科学研究費補助金】(文部科学省)平成 21 年度科学研究費補助金 研究成果促進費「研究成果公開発表(B)」不採択通知(4.23)(日本学術振興会)平成 20 年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「定期刊行物」の実績報告書提出(3.24)平成 21 年科学研究費補助金研究成果公開促進費「定期刊行物」(GJ)交付内定(4.3)・交付申請(4.21)(平成 21 年度 3,800 千円;平成 22 年度 3,200 千円;平成 23 年度 2,900 千円;平成 24 年度 2,700 千円)【研究助成等】2009 年第 1 回鳥居基金助成、採択：森俊哉 (TE-62)、齋藤裕之(TE-63)・川口慎介(TE-64、辞退)、各会員に交付手続(3.18)【後援・共催等】(共催)原子カシンポジウム 2009(東京、5.27 - 28 開催)(2.18 承認);日本地質学会第 116 年学術大会(岡山、9.4 - 6 開催)(3.16 承認)、(協賛)第 37 回可視化情報シンポジウム(東京、7.21 - 22 開催)(5.22 承認)【その他】(株)国際文献印刷社と平成 21 年度業務委託契約(2.18);今年度の学会誌の発送について、GJ Vol. 1, 5 はテラパブ、それ以外は電算印刷に依頼することとなった。宛先不明で戻る学会誌については、国際文献印刷に送られ会員情報の管理に反映される(2.18);「Geochemical Journal 電子版の閲覧に関するお知らせ」を会員に通知(2.23);東京大学海洋研究所についての共同利用・共同研究拠点認定要請書の提出(2.25);日本学術会議アンケート「学術団体における知的財産制度のあり方についてのアンケート」への回答(3.3);2009 年度 GJ に関するテラパブとの覚書締結(3.16);国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)へのコンテンツ提供許諾書(GJ)(2.25 評議員会に提案;3.11 承認;3.16 提出);GJ 出版についての入札を実施、テラパブが落札(4.13);会員へのアンケート配布(4.13 文面を評議員会に提案;4.18 承認;4.21 配布);GJ 賞楯製作(5.8);日本学術会議「研究を進める上で支障となっている事項調べ」についての報告(5.29)【幹事会】2009 年 5 月 30 日 13:00 ~ 第 2 回評議員会の議事内容について整理した(出席：蒲生・海老原・石橋・小畑・佐野・鈴木・角皆・平田・益田の各幹事)。

(2) 会計 (南幹事) :

- ・会計管理規定修正案: 第1回評議員会で提案された会計管理規定の修正案が会計幹事より提案され(3.2), 承認された(4.13)。
- ・2008年度決算について報告があった。2008年度は単年度で63万円の黒字となった。会費収入が2007年度に比べわずかに減少したにもかかわらず黒字となったのは, 出版費が減少し, 評議員会旅費が大幅に減少したためと考えられる。広告料についてはここ3年減少傾向にあるため, 今後ウェブ広告を積極的に推し進めていく必要がある。2008年度は支出の抑制に努めたため, 単年度収支を黒字にすることができたが, 今後, GJ電子化の慎重かつ迅速なる実現に努めるとともに, 引き続き, 会員数の推移も注意深く観察する必要がある。

(3) 会員 (角皆会員幹事) :

- ・退会届の様式: 学会 Webpage からダウンロードする退会届の様式が会員幹事により提案され(3.15), 5月中に承認された。
- ・2009年2-5月の会員異動について, 会員幹事より提案があり, 1ヶ月の審議を経て承認された(6.15)。

【入会】

(2月)

一般正会員

9282602 田中 伸一 タカ シン

(独)水産総合研究センター北海道区水産研究所

学生会員(学生パック)

9282597 服部 祥平 フトリ ショウヘイ

東京工業大学大学院総合理工学研究科環境理工学創造専攻

(3月)

一般正会員

9282598 安 瑾鎬 アン クホ

Yeong Jae Corporation

9282604 宮本 ユタカ ミヤモト ユカ

日本原子力研究開発機構原子力基礎工学研究部門

学生会員(一般)

9282599 三島 真理 ミシマ マリ

東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻川幡研究室

学生会員(学生パック)

9282601 神田 ゆか カタ ユカ

名古屋大学理学部地球惑星科学科地球化学講座

(4月)

一般正会員

9282588 渡辺 賢一 ワタベ ケンイチ

名古屋大学工学研究科

9282603 野崎 達生 ノザキ タツオ

独立行政法人海洋研究開発機構地球内部ダイナミクス領域

9282607 国広 卓也 くにひろ たくや

岡山大学地球物質科学研究センター

学生会員（学生バック）

9282605 中田 亮一 なかた りょういち

広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻

（5月）

一般正会員

9282612 三好 恵真子 みよし めまこ

大阪大学人間科学研究科グローバル人間学専攻人間開発学講座

9282616 中村 仁美 なかむら にみ

産業技術総合研究所地質情報研究部門

学生バック

9282608 富部 麻利子 とみべ まりこ

上智大学大学院理工学研究科理工学専攻化学領域木川田研究室

9282609 山内 理恵子 やまうち りえこ

上智大学理工学研究科理工学専攻木川田研究室

9282610 朝比奈 健太 あさひな けんた

筑波大学大学院生命環境科学研究科持続環境学専攻有機地球環境化学研究室

9282611 小澤 萌 小ざわ めい

名古屋大学環境学研究科地球環境科学専攻地球化学講座

9282613 伊藤 絵理佳 いとう えりか

学習院大学大学院自然科学研究科化学専攻村松研究室

【退会】

（2月）

一般正会員

4281940 荒波 一史

9282308 SOHN,KEE-SEOK

学生会員

9282460 柏木 祐

9282462 上野 弘貴

9282485 中村 高志

（3月）

一般正会員

8281782 大槻 晃久

9282387 中島 美和子

9280355 中島 進

（4月）

一般正会員

7281574 芳賀 信彦  
9282459 藤岡 聡介  
(5月)  
シニア会員  
5280201 兼島 清 2009/3/25 逝去

【会員種別変更】

(2月)

なし

(3月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
2282103	西村 崇	学生正会員	一般正会員

(4月)

3282311	板井 啓明	学生正会員	一般正会員
5282179	伊礼 聡	学生正会員	一般正会員
9282340	川口 慎介	学生正会員	一般正会員
9282370	小岩 嘉隆	学生正会員	一般正会員
9282414	山本 祐平	学生正会員	一般正会員
9282427	中村 隆志	学生正会員	一般正会員

(5月)

281391	坂本 浩	一般正会員	シニア正会員
2280699	柳 哮	一般正会員	シニア正会員
3280722	吉池 雄藏	一般正会員	シニア正会員
6281195	木村 幹	一般正会員	シニア正会員
7280296	松葉谷 治	一般正会員	シニア正会員
9282430	後反 克典	学生正会員	一般正会員

2009年5月31日現在の会員数

	一般正 会員	学生会員 (学生パッ ク除く)	学生パ ック	シニア 正会員	賛助会 員	名誉会 員	計	在外会 員
2009.1.31	747	75	46	59	11	9	947	39
入会	8	1	8	0	0	0	17	1
退会	-7	-3	0	0	0	0	-10	-3
逝去	0	0	0	-1	0	0	-1	0
除名	0	0	0	0	0	0	0	0
会員種別変更	8	0	0	5	0	0	0	0
会員種別変更	-5	-8	0	0	0	0	0	0
海外へ移住								0
帰国								-2
2009.5.31	751	65	54	63	11	9	953	35
参考2008.5.31	760	60	44	55	11	9	939	38

名簿号発行に関しては、入稿を7月中旬、印刷完成を7月下旬とすることとなった。また、名簿号の原稿については、本体を事務局、日本地球化学会ハンドブックを庶務幹事、奥付・凡例・裏表紙・会員数動向を会員幹事が担当することとなった。印刷は前回と同じく電算印刷㈱に依頼する予定である。

(4) 編集：

- a. GJ(佐野幹事, 6.15)： No. 1 と No. 2 はそれぞれ2月末、4月末に発行されたことが報告された。また2月より5月15日までの編集状況について説明があった。42の論文の投稿があり、受理13報、却下14報、残りは審査中か審査員選考中であるとの報告があった。
- b. 地球化学(益田幹事, 6.15)： 2009年度1号については報文4編を掲載し、2号については、報文2編、受賞記念論文1編、博士論文抄録2編を掲載し6月発送予定であるとの報告があった。2009年1-5月には報文8編(うち特集4編)、総説2編(うち特集2編)、受賞記念論文2編、博士論文抄録3編を受け付けた。また、過去5年の学会賞等受賞者に、論文投稿依頼を行ったとの報告があった。今後は、3号を特集号「太陽系起源研究の新展開」(垸本、三浦編集担当)として8月末頃に、4号を12月に発行する予定である。
- c. ニュース(石橋幹事, 6.15)： ニュースレターNo.196の発行(3.30)。No.197を編集集中との報告があった。また、ニュース電子メール版、2009No.31-87まで57件の発信を行ったとの報告があった。
- d. 広報(鈴木幹事, 6.15)： 連合大会中に開催された第5回広報委員会(5.18)についての報告があった。広報委員会として以下の活動を行うことが報告された。Goldschmidt2009に向けての英語ページの更新、学会ホームページにおける学会員の最新成果紹介、ホームページへの広

告掲載の追加募集，年会におけるプレス発表，地球惑星科学連合 2009 年大会におけるブース設置と地球化学講座の販売，Goldschmidt2009 におけるブースの設置，講師派遣。

(5) 行事：

- a. 2009 年日本地球惑星科学連合大会(平田幹事, 6.15): 日本地球惑星科学連合 2009 年大会 (5.16-21, 幕張メッセ国際会議場)についての報告があった。日本地球化学会は，展示ブースの開設，学会活動のアピール，地球化学講座シリーズの販売，ショートコースパンフの配布などを行った
- b. 2009 年ゴールドシュミット国際会議(平田幹事, 6.15): 2009 年ゴールドシュミット国際会議 (6.21-26, スイス・ダボス)について，日本地球化学会会員は 50 ユーロ割引の優遇措置が受けられること，Exhibition で展示ブースを開設する予定であることが報告された。
- c. 2009 年日本地球化学会年会準備状況(日高評議員, 6.15): 広島大学東広島キャンパスにおいて開催予定の日本地球化学会第 56 回年会(2009 年 9.15-17)の準備状況について報告があった。共催学会は日本化学会，日本鉱物科学会，日本地質学会，日本質量分析学会となったこと，年会にあわせて 9 月 13 日(日)に一般講演会開催を検討中であること，2009 年度年会ホームページをオープンしたこと(<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2009>)などが報告された。
- d. 第 4 回ショートコース(平田幹事, 6.15): 日本地球化学会年会にあわせ，会期前日(9.14)に第 4 回ショートコースを開催予定。プログラムについて説明があった。定員 50 名，参加費は 3000 円（日本地球化学会会員は学会から 2000 円の補助有）。
- e. 日本地球化学会 2010 年度年会(平田幹事, 6.15): 来年度の日本地球化学会年会は，立正大学（熊谷キャンパス）で開催予定。実行委員長は福岡孝昭会員。開催時期，開催方式，運営方式（評議員による LOC 支援）等について議論を開始した。

(6) 各種委員会：

- a. 鳥居基金選考委員会(中井委員長)：2009 年度第 1 回鳥居基金の選考結果について，鳥居基金選考委員会中井委員長より報告があった(3.2)。海外渡航 5 件，国内研究集会 1 件の応募について審査を行った結果，国内研究集会 1 件(2009 年度火山性流体討論会，森俊哉会員)，海外渡航 2 件(第 24 回有機地球化学国際会議，齋藤裕之会員；第 19 回ゴールドシュミット国際会議，川口慎介会員)が候補者として推薦された。また，海外渡航については，1 件が補欠候補として推薦された。これらの候補者を承認した(3.16)。
- b. 学会賞等専攻委員会(植松委員長):
  - ・ 2009 年度 Geochemical Journal 賞の受賞最終候補として，“ M. Kusakabe, T. Ohba, Issa, Y. Yoshida, H. Satake, T. Ohizumi, W. C. Evans, G. Tanyileke, and G. W. Kling. Evolution of CO<sub>2</sub> in Lakes Monoun and Nyos, Cameroon, before and during controlled degassing. Geochemical Journal, Vol. 42, 93-118.” が学会賞等選考委員会植松委員長より示され(4.11.)，同論文に GJ 賞を授与することが承認された(4.17)。
  - ・ 2009 年度学会賞等選考について，学会賞等選考委員会植松委員長から各賞受賞最終候補者が推薦された(5.13)。柴田賞を高岡 宣雄会員，日本地球化学会賞を南川 雅男会員，吉田 尚弘会員，日本地球化学会奨励賞を中村 謙太郎会員，関 宰会員，飯塚 毅会員に授与することが承認された(5.27 承認)。

- c. 将来計画委員会(海老原委員長より, 6.15): 将来計画委員会から下記の提案が示された。1)「評議員選挙におけるブロック制を廃止し, 専門分野を考慮した選挙に変更する」これはブロック制には, 通信網や交通網の発達によりブロックごとに分ける意義が薄れている, 地域ごとの偏りが進んでいる, 選出される評議員の得票数に大きな開きが生じうるなどの問題があるためである。一方, 地球化学会会員の専門分野は年を追う毎に多様化しており, ブロック制に代わる選挙制度として専門分野制を導入することは, 会員の多様性を評議員選挙に反映するための有効な手段になり得る。但し, 選挙制度の変更ということでもありより多くの会員の意向を打診する必要があるとの意向を汲み, アンケートを実施したが, 過半数を上回る多くの会員の賛意が得られた。このように, 将来計画委員会での審議, 二度にわたる評議員会での審議, 会員の意向調査という極めて慎重な審議を経た提案であり, 本年度の役員選挙を行うにあたって是非とも新しい制度で実施出来るよう, 強く要望する。2)「会員名簿について」会員名簿は, 紙媒体の名簿の発行を 2009 年度限りとし, 国際文献印刷(株)の MyPage システムを利用する。2010 年度に試験運用し, 2010 年度総会で正式承認, 2011 年度正式運用。3)「年会開催について」年会開催については, 評議員会が LOC の要請に応じて年会の開催を支援する。この時, 行事幹事が LOC と評議員会の仲介役を果たし, 支援をとりまとめる。また, 支援に当たる評議員の旅費については会が年会補助金とは切り離して支弁する。LOC は年会の収支を評議員会に報告する。4)「地球化学の発行について」「地球化学」は, 会と会員を繋ぐ媒体として重要度が高まっていることを考え, 発行回数は従来通り年 4 回とする。5)「Geochem. J の発行について」GJ の長期的展望を議論する場として, 将来計画委員と GJ の編集委員からなる委員会を作る。この委員会では, 今後の地球化学会における GJ の位置づけ, 論文誌としての質の向上, GJ 発刊の長期的展望に関して早急に議論することが求められる。GJ 発刊の長期的展望に関しては, 完全電子化, 半独立採算(投稿料, ページチャージ徴収), 他紙との共同発行について早急な議論が求められる。
- d. 名誉会員推薦委員会(海老原副会長, 6.15): 名誉会員推薦委員会(5.29)において 2009 年度は名誉会員の推薦を行わないとの結論に達したことが報告された。
- e. 日本地球惑星連合各種委員会の活動状況について (6.15): 国際委員会が解散され, 国際学術委員会が発足予定であることが佐野委員より報告された。情報システム委員会は, 連合のホームページや大会当日のネットワーク構築などを担当していることが鍵委員より報告された。委員の任期は 1 年のため 5 月末で任期切れとなるが, 全ての委員がもう一年継続して委員を引き受けることとなった。また, 連合大会会期中に総務委員会が開催された(5.20)ことが, 平田委員から報告された。ここでは副委員長の選任, 連合大会参加者数の途中経過, 総務委員の任期, 会員管理小委員会設立, 法人化の経緯と現状などが議論された。教育問題検討委員会(5.17)については, 瀧上委員から議事内容について報告があった。併せて, 国際地学オリンピック日本委員会の現状についても瀧上委員から説明があった。
- f. 地球化学講座編集委員会(蒲生会長, 6.15): 地球化学講座第 8 巻の進捗状況について, 蒲生会長より報告があった。8 月中には完成原稿が揃うのではないかとの見通しが示された。
- g. 地球と宇宙の化学事典編集委員会(蒲生会長・海老原副会長, 6.15): 「地球と宇宙の化学事典」の編集状況について, 蒲生会長・海老原副会長より報告があった。出版社(朝倉書店)との間で, 事典に掲載する項目案が調整された。掲載項目を最終的に確定し, 原稿の執筆依頼に進むために, 本年 7 月下旬~8 月上旬にかけ第 4 回編集委員会を東京で開催する予定である。

(7) 連合関係：

- a. 日本地球惑星科学連合関連(蒲生会長, 6.15)：日本地球惑星科学連合学協会会長懇談会(5.19)について、蒲生会長より報告があった。この懇談会では、法人化後の経過報告および今後の方針、2009年度連合大会の現状などについて報告があり、連合における学協会の役割と連携について議論が行われた。学協会長懇談会は年2回程度の頻度で開催したいとのことであった。
- b. 日本化学連合関連 (6.15)：日本化学連合平成21年度第4回理事会・第2回評議会について、蒲生会長より報告があった。

(8) その他 (蒲生会長, 6.15)：

蒲生会長より、名簿調査時に配られたアンケートの結果について報告があった。名簿号冊子体の発行を今年度限りとすることについて、賛成447名、反対71名、無回答30名であったことが報告された。

### 3. 審議事項

- (1) 役員選挙制度の改定について(6.1 蒲生会長より提案; 6.5. 議決)：役員選挙制度について、2009年度第1回評議員会後、4-5月にかけて会員へのアンケート調査が実施された。最終的に、548名の会員から回答が寄せられ、「地区ブロック制の廃止」への賛成413名(75.4%)、反対95名(17.3%)、無回答40名(7.3%)という結果となった。この結果を踏まえて、将来計画委員会でさらに検討が進められ、「日本地球化学会役員選出細則」の改定案(地域ブロック制を廃止すること、役員候補者(立候補者および推薦候補者)は専門分野を自己申告することとする)が提出された。この案を受け、本選挙制度の改定を間もなく実施する次期役員選挙から適用するか、または2年後の役員選挙から実施するかの選択を巡り議論が交わされた。その中で以下の2案：「(案1)次期選挙(本年6-8月実施)から新しい選挙制度を適用する」「(案2)さらに時間をかけて議論を継続し、改正案の充実を図る」が採決にかけられた。その結果、評議員22名のうち(案1)を支持する者12名、(案2)を支持する者9名、その他1名で、(案1)が評議員の過半数の賛同を得て可決された。「日本地球化学会役員選出細則」第9条の規定により、評議員での議決をもって本細則の変更が確定された。この結果はメールニュース及び「日本地球化学会ニュースNo.197」に掲載された。
- (2) 2008年度決算(6.15 南幹事より提案)：南会計幹事からの2008年度決算報告について、審議が行われた。決算は、総会において最終的に承認される見込みである。
- (3) 「日本地球化学会学会賞等受賞者選考細則」改正(6.15 小畑幹事より提案; 6.30 承認)：2009年度第1回評議員会での議論に基づき、学会賞等受賞者が受賞記念論文を会誌に投稿するように、「日本地球化学会学会賞等受賞者選考細則」の改正が提案され、承認された。
- (4) 将来計画委員会からの提言(6.15 海老原委員長より提案; 6.30 承認)：将来計画委員会からの、「会員名簿について」、「年会開催について」、「地球化学の発行について」、「Geochem. Jの発行について」の提言が示され、承認された。
- (5) GJのDOIナンバー(6.15 佐野幹事より提案; 6.30 承認)：学会としてGeochemical Journal誌に掲載される論文の1つ1つにDOIのナンバーを付けることをテラバブに要請することが提案され、承認された。ただし、これまでのヴォリューム、ページ立ての表記も残して、二重表記とする。
- (6) 日本地球惑星科学連合教育問題検討委員会への委員の推薦(6.15 蒲生会長から提案; 6.30



承認): 日本地球惑星科学連合法人化に伴い, 教育問題検討委員会委員は学協会代表から学協会推薦となった。そこで, 日本地球化学会からは, 教育問題検討委員会委員として瀧上評議員と津野会員を推薦することが提案され, 承認された。

(7) 講師派遣について(6.15 鈴木幹事から提案; 6.30 承認): 広報委員会から, 学会として「講師派遣」を実施することが提案され, 承認された。

#### **【今後の予定】**

2009 年第 3 回幹事会 : 9 月 5 日 (土) 東京大学山上会館 13:00 から

2009 年第 3 回評議員会 : 9 月 14 日 (月) 広島大学理学部 14:00 から

2009 年日本地球化学会総会 : 9 月 16 日 (水) 広島大学理学部

2009 年第 4 回評議員会 : 9 月 17 日 (木) 広島大学理学部